

「日本ブランド発信事業」専門家
彫刻家、SANDWICHディレクター
京都造形芸術大学教授
名和晃平

Material Sensation

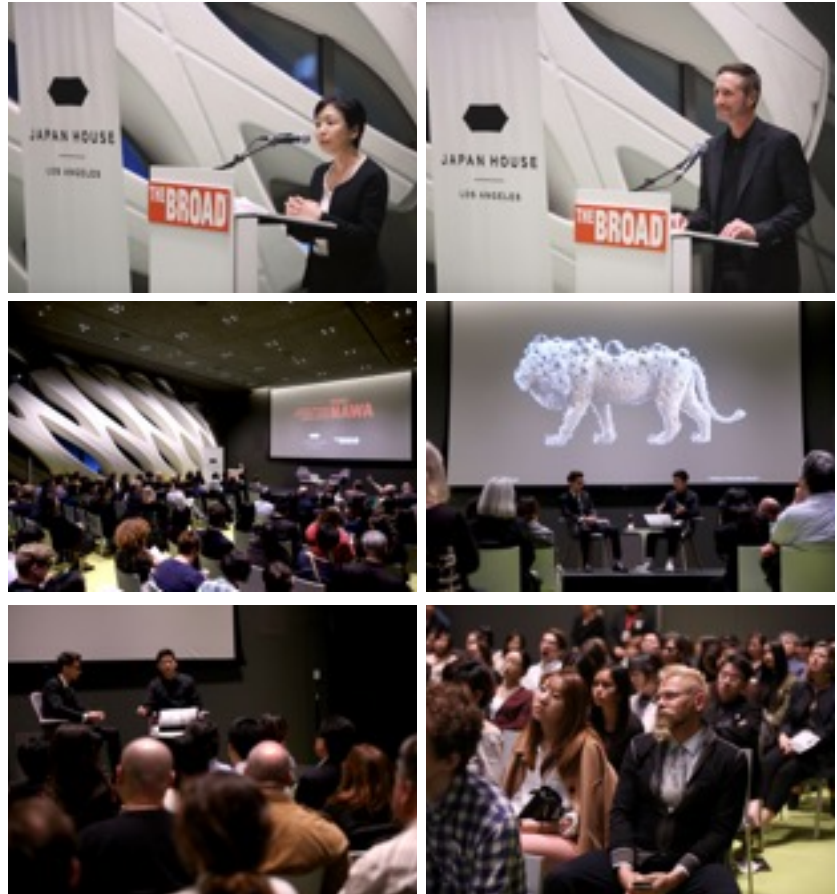


事業内容 | 2017年3月1日より9日まで日本発ブランド事業の専門家として、ロサンゼルスとサンパウロの2都市で講演及び作品展示・調査を行った。ロサンゼルスでは、一昨年オープンしたばかりの美術館、The Broadで作品展示とレクチャー、交流会を開催し、今年オープンが予定されている JAPAN HOUSE Los Angelesの視察や、クリエイター向けシェアオフィスNeueHouseで学生やクリエイター向けの講義を行った。サンパウロでは、美術館や移民史料館を訪問し、今年5月にオープンの JAPAN HOUSE Sao Pauloの視察、Sesc（セスキ「ブラジル商業連盟社会サービス」という名の総合文化センター）での講義を行った。今回の事業では、彫刻家としての自分の作品と、ディレクターを務めるクリエイティブ・プラットフォームSANDWICHでの様々なプロジェクトと活動を中心に、アートとテクノロジーの多様性や、ボーダーレスになってきた制作の現場を紹介するとともに、各地の制作の現場を訪問し、今後の作品やプロジェクトの海外での展開を感じる貴重な機会となった。グローバル化が進む中で、同じ時代を生きるクリエイターたちが集まり、ジャンルにとらわれないクリエイションについて議論することで、様々な可能性を感じた訪問となった。

The Broad

-Lecture, 2 March. 2017
Los Angeles

2015年秋にロサンゼルスにオープンした実業家イーライ & エディス・ブロード夫妻のプライベート・コレクションを集めた個人美術館The Broadでのレクチャー。オープンして1年以上経つにもかかわらず、美術館前には連日、入場するために長蛇の列ができていた。レクチャーも予想を上回る数の人々がロスやロス郊外から足を運んでくれて、西海岸での現代美術への関心の高さを感じた。



〈左上：聴講者に配布したパンフレット、右上：講義スライド抜粋〉

今回はロサンゼルスで初めて自分の作品を展示し、紹介する機会だったので、「Cell」という概念を彫刻に展開してゆく中で代表作となっている「PixCell」シリーズの作品のコンセプトや、他の作品のカテゴリーの繋がりなどがわかりやすく伝わるような内容の構成にし、自分の表現活動を俯瞰的に説明していった。また、作品だけでなく、ディレクターを務めるSANDWICHでの活動や、ジャンルを超えたコラボレーションの様子なども、映像も交えながら紹介した。作品ごとの素材や技法を含めた話は、特に若いクリエイターや学生たちに興味を持ってもらえたようだった。ロサンゼルスに来る2日前までパリでファッションショーのための服の制作に集中していたので、その制作過程とショーの様子も映像で紹介し、約1時間のレクチャーであったが、様々な作品と活動を紹介することができた。

The Broad

-Reception, 2 March, 2017
Los Angeles

レクチャーの後、作品展示をしている美術館のThe BroadのRetail Shopにて行われたレセプションに参加し、レクチャーに来てくれた人々や地元のメディア、美術関係者と交流する機会を得た。作品は「BEADS」、「VILLUS」、「VESSEL」シリーズから4点を選んで展示。ロサンゼルスはアートのみならず、日本文化への関心も非常に高く、いくつかの新しいプロジェクトの展開に繋がる話も多かったです。





PixCell-Deer#24, 2011



Force, 2015



KOHEI NAWA



VESSEL, 2016



Manifold, 2013

Cover Photo above: PixCell-Lion, 2015
below: Foam, 2013
©KOHEI NAWA

KOHEI NAWA

Kohei Nawa was born in Osaka, Japan, in 1975 and now lives and works in Kyoto. He received his MFA, and PhD in Fine Arts from the Kyoto City University of Art. In addition to his work as an artist, Nawa is the founder and director of SANDWICH, a creative platform for contemporary art, design, and architecture projects, which is currently developing the plan for Japan House Los Angeles' retail and exhibition spaces. A master of material and surface, Nawa's signature sculpture works transform taxidermed deer and other motifs, collected via the internet, through encapsulation in a myriad of glass spheres, or PixCells; a term he established combining the idea of a pixel, the smallest unit of a digital image, with that of a cell, the smallest structure of living matter. Nawa's "PixCell-Deer#24" is part of the Metropolitan Museum of Art's permanent collection.

<http://kohei-nawa.net> <http://sandwich-cpca.net>



JAPAN HOUSE
LOS ANGELES

JAPAN HOUSE is a project created to showcase Japan through exhibitions and events from the arts and design, to fashion, leading-edge technology and beyond. In 2017, the project will open hubs in Los Angeles, London and Sao Paulo.



THE BROAD



〈上：The Broad Retail Shopで配布したパンフレット〉

JAPAN HOUSE Los Angeles

-Visiting, 3 March. 2017
Los Angeles

ロサンゼルスハリウッドに新しくオープンするJAPAN HOUSE Los Angelesの建設現場を視察。JAPAN HOUSEは世界に日本の多様な魅力を発信する場として外務省が創設する施設で、今後様々な文化事業の展開を予定している。



視察の数日前に、ちょうどアカデミー賞の授賞式が開催されていたため、交通規制や残されたレッドカーペットから盛大なイベントの名残が感じられた。海部優子館長に工事中の施設を案内いただき、世界中から観光客が集まる場所に日本の文化発信の地盤ができることに期待するとともに、今後どのようにしてソフトとハードをつなげていくのが、課題になってくるだろう、と思った。

NeueHouse

-Lecture, 3 March. 2017
Los Angeles

ハリウッドのJAPAN HOUSEの近くにある、スイス企業と日系企業の合併で作られたシェアオフィスNeueHouseでのレクチャー。カリフォルニア芸術大、ArtCenter College of Designの学生、文化関係者向けに約1時間のレクチャーを行った。



NeueHouseは主にクリエイター向けのオープンなラウンジとアトリエ、シアター、ミーティングスペース、バーなどを揃えたシェアオフィスとして、ロサンゼルスクリエイティブ・プラットフォームのような役割を担い、SANDWICHの参考になるような施設を備えていた。前日のThe Broadとは内容を変え、SANDWICHでの活動を中心に、3Dスキャンや3Dモデリング、モーションキャプチャーなどのテクノロジーを駆使した作品の制作過程などを紹介。レクチャーはThe Broadでのレクチャーでも通訳してくれたマイク氏が息の合う逐次通訳をしてくれて、1時間のレクチャーはあっという間に終了し、その後、2階のレセプション会場で様々な人々と交流する機会を得た。

Sao Paulo

-Research, 5 March. 2017
Sao Paulo

ロサンゼルスからオーランド経由でグアルーリョス空港に到着。その後、サンパウロ美術館、ブラジル日本移民史料館、Sesc（セスキ）ポンペイアなどを視察した。ブラジル訪問は2度目だが、サンパウロは初めての訪問だったので、見るものすべてから新鮮な印象を受けた。

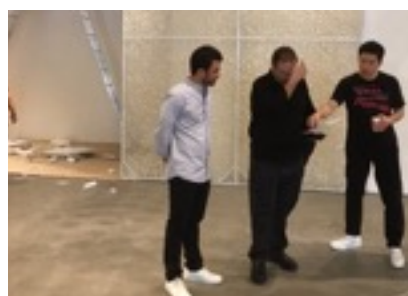


Sescポンペイアは旧ドラム缶工場だった建物を総合文化センターにリノベーションした市民が集う場所として、内部にはレストラン、図書館、運動場、工房など様々な施設が備えられていた。リナ・ポバルディが設計したこの建築には、とても力強い印象を受けた。

JAPAN HOUSE Sao Paulo

-MTG, 6 March. 2017
Sao Paulo

企画局長のマルセロ・ダントス氏に、完成間近のJAPAN HOUSE Sao Pauloを案内してもらい、展覧会の視察と打ち合わせを行った。場所はオフィス街や文化施設の中心地にあり、多くの人々が行き交う通りに面した場所に位置する。



建築は、隈研吾氏が設計したもので、1階のギャラリーはソトドマと呼ばれる外庭に続いている。開放感あふれる空間になっており、天井には白い格子を模したスクリーンがついている。ダントス氏から展覧会の打診もあったので、この空間でどのような展示が可能か、現場で打ち合わせを行った。話を進めてゆく中で、作品がいくつか頭に浮かび上がり、早速、その場でドローイングをしながらプランイメージを掴んでいった。現地でのプランニングは、空間の中で作品イメージを掴むための重要なプロセスなので、オープン前のこのタイミングでそれができたのは非常に有意義であった。

Sesc

-Lecture, 7 March. 2017
Sao Paulo

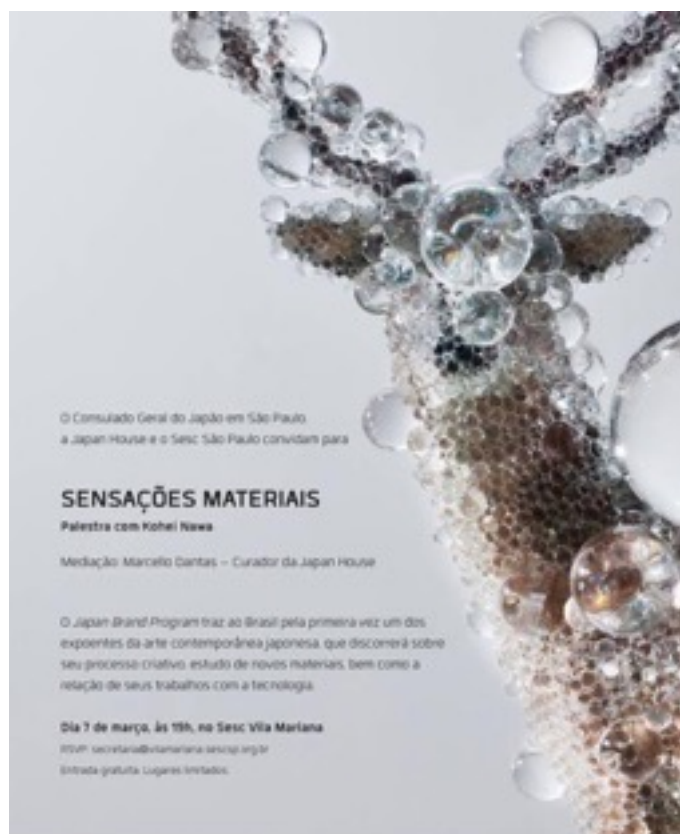
最後のレクチャーはサンパウロ州だけでも30以上の支部があるSescという機関で行った。Sescにはテクノロジー&アートスペースという技術研究部門が設けられ、日常的にアートとテクノロジーについて学び、ワークショップを行っている。



Sescのアートとテクノロジーの専門講師をはじめ、アーティストやアートやデザインを専攻している学生約250人を対象に作品を中心とした自身の活動を紹介した。講演タイトルは「Material Sensation」。普段から彫刻表現として様々な素材を扱い、物質の持つ情報量の多さというものを実感している中で、物質やマテリアルから今の時代を感じてもらいたいとの思いからこのタイトルを選んだ。約1時間のレクチャーの後、作品のマテリアルなどについての質問を多く受けたのが印象的だった。様々な素材、技術の選択肢がある情報化社会の中で、アートとテクノロジーの繋がりやマテリアルの可能性を探りながらクリエイションを行う状況は、国境を超えても変わらないのだ、と感じた。



〈上：レクチャーの様子 右：配布パンフレット〉



Sesc

-Reception, 7 March. 2017
Sao Paulo

レクチャー後のSesc会場でのレセプションに参加し、聴講者、地元の作家やメディア関係者の方々と交流する機会を得た。いくつかのメディアの取材も受け、多くの人々が作品やSANDWICHの活動に対して興味を持ってくれたようで、活発な意見が多く寄せられた。



レクチャーが始まる前に、ダンタス氏の紹介で、ブラジル人アーティストのアルトゥール・レスシャー氏と昼食を食べながら、様々な意見交換を行った。同じ時代にアーティストとして活動する中で、共感する部分も多く、話が弾んだ。レクチャー後のレセプションでは、様々な交流の機会を得た。帰りの便まで時間がなく、会場から直接空港に向かわなければならないのが名残惜しかったが、次の訪問を楽しみに帰国の途についた。

まとめ | この事業の直前にパリでのプロジェクトがあったため、パリーロサンゼルス・サンパウロとかなりの長距離移動であったが、それぞれ短い滞在の中で、3回のレクチャーと、リサーチや展示などを含めた訪問となり、大変有意義な機会となった。それぞれの土地の持つ歴史や風土を踏まえた地域的な視点と共に、常にグローバルな視点で物事を捉えながら、今回の機会を今後の活動に繋げていきたいと改めて思う。

今回の滞在を振り返り、末筆ながら、事業準備に携わってくださった外務省の皆様、レクチャーや展示のコーディネートをしてくださったJAPAN HOUSE Los Angelesの皆様、JAPAN HOUSE Sao Pauloの皆様、現地でサポートしてくださった在ロサンゼルス総領事館の皆様、在サンパウロ総領事館の皆様に心より感謝を申し上げます。

【参考リンク】

外務省「日本ブランド発信事業」：http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/pds/page22_001100.html

名和晃平 ウェブサイト：<http://kohei-nawa.net>

SANDWICH ウェブサイト：<http://sandwich-cpca.net>